

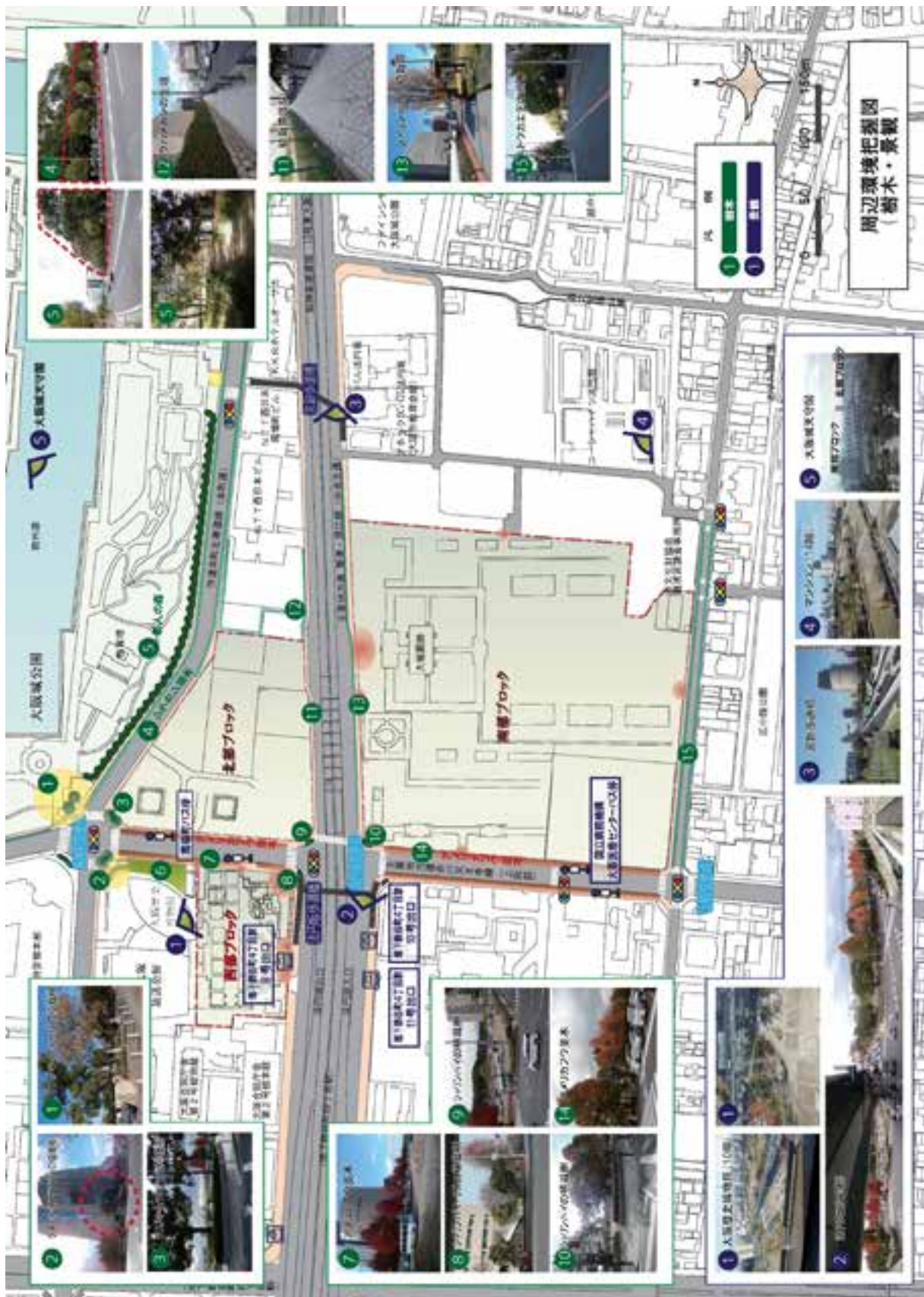


図10 難波宮跡公園周辺環境把握図(樹木、景観)



図11 難波宮跡南部ブロック現況把握図(樹木)

5)交通・アクセス

難波宮跡公園は大阪平野のほぼ中心にあり、海拔ゼロメートル地帯が広がる大阪平野の中で唯一の高台である上町台地の北端にある。近世には大坂城を中心として西側一帯に城下町が形成され整然とした碁盤目状の街区が形成されており、これが今日の大阪市の中心市街地を形成している。道路・交通網もこれを引き継ぐ形で、東西南北に道路及び鉄道網が張り巡らされている。公園へは地下鉄谷町四丁目駅、同森ノ宮駅、ＪＲ森ノ宮駅などを利用することができる。また、地域高規格道路である阪神高速道路13号線の出入口が隣接するなど、車による広域アクセスも良好である。

地下鉄やＪＲ、大阪シティバス等の公共交通機関や道路交通網が充実しており、アクセス性の良い立地にあると言える。



図12 難波宮跡公園周辺交通網図

公共交通機関

地下鉄	地下鉄中央線：谷町四丁目駅 森ノ宮駅 地下鉄谷町線：谷町四丁目駅 天満橋駅 地下鉄長堀鶴見緑地線：森ノ宮駅
J R	大阪環状線：森ノ宮駅、大阪城公園前駅
大阪シティバス	62系統バス停留所：国立病院大阪医療センター、馬場町、大手前、京阪東口、天満橋
大阪水上バス	アクアライナー観光コース船着場：大阪城港、八軒家浜船着場

道路

高速道路	阪神高速13号東大阪線：森ノ宮IC 法円坂IC
一般道路	中央大通、本町通 上町筋、谷町筋、玉造筋

交通施設

項目	施設名称	特徴
鉄道(駅)	地下鉄谷町四丁目駅	地下鉄谷町線・中央線 計画地周辺出口：⑨⑩⑪号出口
バス(バス停)	馬場町バス停	大阪シティバス 62系統バス停留所
	国立病院大阪医療センターバス停	大阪シティバス 62系統バス停留所
高速道路	阪神高速13号東大阪線	計画地周辺IC：法円坂IC・森ノ宮IC
道路	主要地方道築港・深江線 (中央大通)	法円坂歩道橋・宮跡 歩道橋が整備。 計画地を南北に分断する道路。一部遺構保存のため、平面道路区間がある。
	主要地方道赤川天王寺線 (上町筋)	中央大通 上町筋交差点：法円坂交差点
		南部ブロック南西部交差点：上町交差点
	市道本町左専道線 (本町通)	本町通 上町筋交差点：馬場町交差点

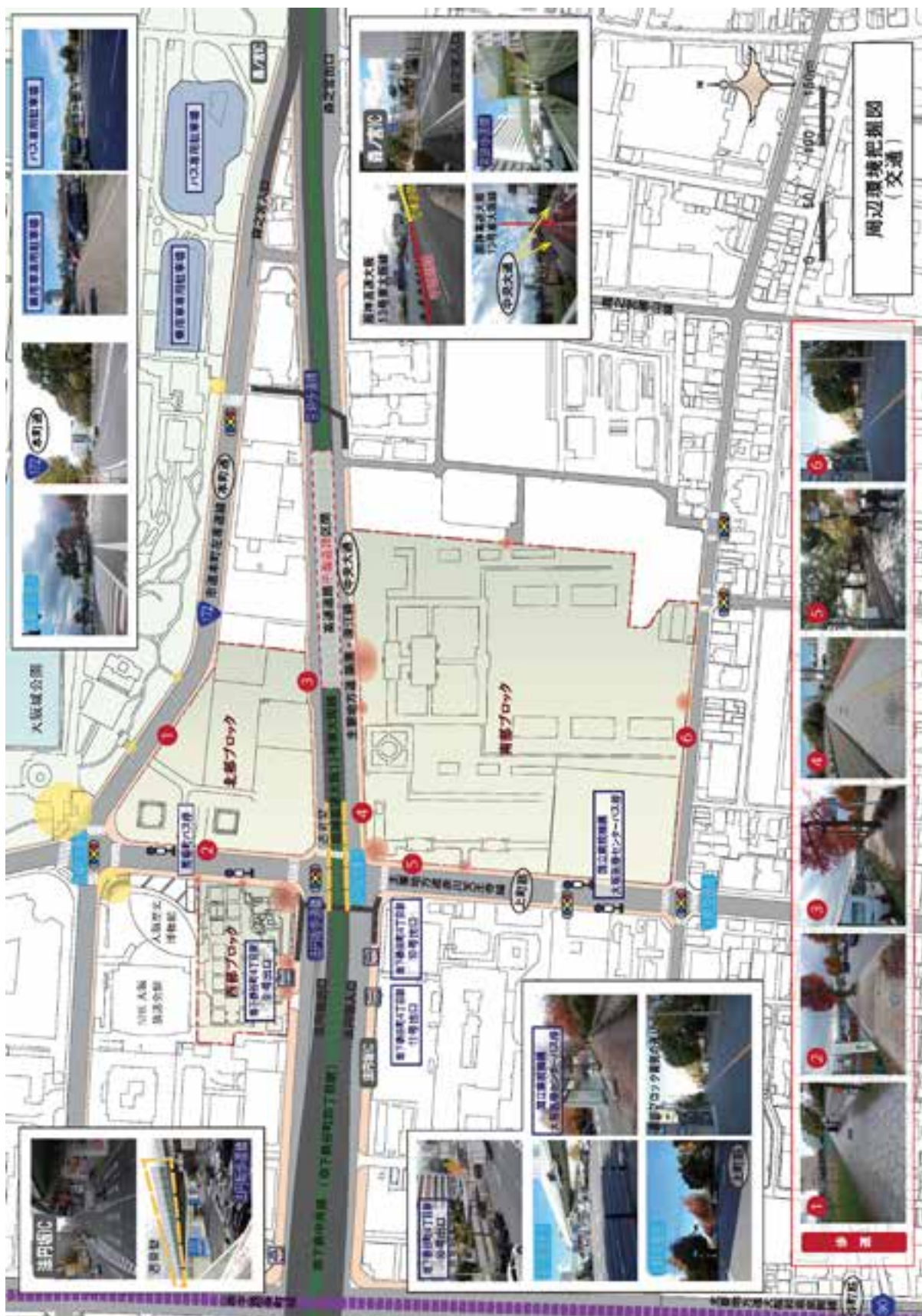


図13 難波宮跡公園周辺環境把握図(交通)

6) 難波宮跡公園周辺の駐車場配置状況

難波宮跡公園周辺の駐車場配置状況について整理した。

(平成31年3月現在)

No	施設名称	収容台数	車両制限	営業時間/料金	備考
1	大阪歴史博物館 地下駐車場	143台	車高2.1m 地下駐車場	08:00～21:00/60分400円 以後30分ごとに200円	
2	大阪城公園 駐車場	200台	車高2.5m 車幅1.9m 車長5.0m	08:00～22:00/60分350円 22:00～08:00/60分150円	
3	大阪城公園 城南バス駐車場	50台		08:00～22:00/60分700円 22:00～08:00/60分350円	バス専用
4	タイムズ 大阪府庁大手前第2	46台	車高2.1m 車幅1.9m 車長5.0m	07:00～00:00/20分300円 00:00～07:00/60分100円	
5	大阪市立法円坂 駐車場第2ブロック (タイムズ)	248台	車高2.1m 車幅1.9m 車長5.0m	07:00～22:00/60分300円 22:00～07:00/60分100円	歩行者の出入口は 谷町筋のみ
6	GSパーク 谷町4丁目	40台	車高2.4m未満	08:00～22:00/40分200円 22:00～08:00/60分100円	
7	アネックスパル 法円坂駐車場	30台	車高2.1m 車幅1.9m 車長4.9m	00:00～24:00/60分300円	
8	リパーク 法円坂1丁目	10台	車高2.0m 車幅1.9m 車長5.0m	08:00～20:00/40分200円 20:00～08:00/60分100円	
9	リパーク 上町1丁目第3	3台	車高2.0m 車幅1.9m 車長5.0m	08:00～20:00/40分200円 20:00～08:00/60分100円	
10	法円坂パーク	6台		08:00～20:00/30分200円 20:00～08:00/90分100円	
11	リパーク 法円坂1丁目第3	6台	車高2.0m 車幅1.9m 車長5.0m	00:00～08:00/60分100円 08:00～20:00/30分200円 20:00～00:00/60分100円	
12	リパーク 上町1丁目第4	4台	車高2.0m 車幅1.9m 車長5.0m	00:00～08:00/60分100円 08:00～20:00/30分200円 20:00～00:00/60分100円	
13	タイムズ 上町第5	3台	車高2.1m 車幅1.9m 車長5.0m	08:00～22:00/60分300円 22:00～08:00/60分100円	

14	リパーク 国立大阪病院南	8台	車高2.0m 車幅1.9m 車長5.0m	00:00～24:00/25分200円	
15	ブレイク上町	3台		00:00～24:00/30分200円	
16	イズミヤ法円坂店 駐車場	83台		07:00～25:00	
17	KKRホテル大阪 立体駐車場	76台	車高1.6m未満	07:30～22:30/30分300円 30分ごと300円	ホテル利用 客のみ利用 可

7) 土地利用

現在、難波宮跡は大坂城跡とならび都市公園として広く利用されている。江戸時代には大坂城の周辺は城代屋敷などの武家地が広がっていた。明治時代以降は武家地の跡地は軍隊や軍需工場が建設されるなど、公共の施設用地として使われたが、現在も国や大阪府などの官公庁や公共施設が多くを占めている。また、難波宮跡や大坂城跡などの遺跡は公園となり、オープンスペースとして確保されており、古来港湾・交通路として重要な役割を果たしていた大川(旧淀川)は河岸一帯が緑豊かな水辺空間となるなど、宅地の稠密する市街地中心部にあって、広がり潤いのある空間となっている。

8) 災害時の緊急避難地について

大阪市はわが国でも有数の人口集積地である。今後、近辺の上町断層等の内陸活断層による地震や、南海トラフで発生する海溝型の地震等の大規模な災害が発生する恐れがあるため、避難者の安全が確保できる避難地の設置が求められる。

広域避難地としては、これまでは10ha以上の公共空地が必要とされてきたが、近年は耐火構造、準耐火構造等の普及により大規模な火災が発生しにくくなったこと等の理由により、10ha未満の空地でも、広域避難地として指定することが可能となっている。

上町台地上では大阪城公園がこれに指定されているが、それ以南は天王寺公園までの間には指定地はない。難波宮跡の3ブロックは、この間を埋める避難地として活用が可能である。

9) 人口動向、その他

平成30年(2018)10月1日の大阪市の人口は272万5,006人であり、前年度比1万1,849人(0.4%)の増加であった。近年の4年間についても同様に前年度比0.4%の増加となっている。その中では北、中央、西、福島の4区が2.8～1.7%の高い増加率を示している。

近年観光客の増加が顕著であるが、来阪外国人の動向をみると、平成30年度は同26年度と比較して約3倍(376万人→1,111万人)に増えており、この数値は全国平均の約2倍にあたるものである。うち8割が東アジア4地域(中国、韓国、台湾、香港)からの観光客であり、これは全国平均や東京の数値を上回っている(日本政府観光局「訪日外客訪問地調査」など)。

3 難波地域周辺の歴史

1) 難波宮以前の上町台地

難波宮が立地する上町台地は大阪平野の中を南北に延び、現在の大和川から大川(旧淀川)まで、南北約11km、東西2～3kmの細く長い地形をしている。北端部の大阪城付近が最も高く標高はTP+25mで、南に向かって徐々に低くなり、住吉大社付近でTP+10m前後になる。西は急峻な海食崖であるが、東斜面は緩やかに下がり河内低地に漸移する。台地内部には開析谷が多く入り込んでおり、起伏にとんだ地形となっている。台地北部には遺跡が集中し、難波宮跡のほかにも、森の宮遺跡や宰相山遺跡、上本町遺跡、大坂城跡など、大阪の歴史を語るうえで重要不可欠な遺跡が分布している。

上町台地の東側にある河内平野(河内低地)は、旧石器時代は古河内平野とよばれる平野であったが、最終氷期が去り気候が回復し始めると海面は徐々に上がっていき、約8,000年前の縄文海進期には河内



古河内平野から河内湾の時代(約9,000年前)



河内湾 I の時代(約6,000年前)



宰相山遺跡出土の縄文土器
縄文時代早期末(約7,000年前)の
茅山下層式ないしは粕畑式(高橋2018)



河内湾 II の時代(約5,000年前)



河内湖の時代(約2,100年前)



森の宮遺跡の貝層

図15 上町台地周辺の古地理変遷(大阪市文化財協会編 2008)と難波宮以前の上町台地

湾となった。上町台地の西海岸は外湾に面した崖となり、台地は細長い半島状になる。その後、海岸線の後退と淀川や大和川の河口の前進で、河内湾は徐々に縮小し、河内潟の時代を経て、弥生時代中期頃までには淡水の湖、河内湖となる(図15)。上町台地上で見つかっている最も古い人間活動の痕跡は、台地西側にある宰相山遺跡出土の縄文時代早期の高山寺式土器である。宰相山遺跡では縄文時代早期末～中期初頭の土器(図15右上)やサヌカイトの破片も出土している。同じく上町台地西側の勝山遺跡においても、縄文時代早期～前期初頭の土器が見つかっている。この頃、河内湾に面した上町台地の高台で人々は活動を開始したようである。

また、上町台地の北東端の斜面にある森の宮遺跡では、縄文時代中期以降人々の居住が始まり、縄文時代後期から弥生時代中期にかけて大規模な貝塚を形成するようになる。東西30m、南北100mの西日本最大級とされる森の宮貝塚である(図15右下)。森の宮貝塚は縄文時代後期の貝層はマガキを主体とするが、縄文時代晩期～弥生時代中期の貝層はセタシジミを主体としており、遺跡の周辺環境が河内湾から河内湖へと変遷するようすを反映している。そのほか、河内湾・河内湖を取り囲む位置に立地する森小路遺跡や同心町遺跡では弥生時代の集落跡が見つかっている。

2) 難波宮下層遺跡群

上町台地上で本格的な開発が始まるのは古墳時代以降である。古墳時代中期を起点に、難波宮が建設される7世紀まで、継続して竪穴建物や掘立柱建物が発見されている。これらの難波宮造営前の遺構を総称して「難波宮下層遺跡群」と呼ぶ。

その中で、特に注目されるのは法円坂遺跡の建物群である(図16)。現在の大阪歴史博物館とNHK



図16 法円坂遺跡倉庫群と同復元建物(大阪市文化財協会1992)

大阪放送会館とが建つ敷地において、計16棟の掘立柱建物が東西2群に分かれて整然と並んで発見された。建物はいずれも5間×5間の総柱高床式建物で、東西約10m、南北約9m、床面積90㎡の同一構造・同一規模で、正方位に並ぶ。この建物群は一部が5世紀後半の堅穴建物に壊されており、柱穴や周辺から出土した須恵器の型式ともあわせて5世紀前半頃の建設と考えられている。これらは古墳時代における突出して大規模な倉庫群であり、瀬戸内海を経て、大陸へと通じる畿内への玄関口ともいえる場所に立地することから、倭王権が直接管理するものであったと考えられている。

また倉庫群の北700mには現在の大川がある。このころ河内湖は旧淀川・大和川が運ぶ土砂により徐々に埋まり、排水不良の湿地帯となっていた。『日本書紀』卷十一仁徳天皇の条には、湿地帯と大阪湾をつなぐ「難波堀江」を開削したと記されている。この難波堀江付近に倭王権の港である「難波津」があったとされ、大規模倉庫群は難波津と関連する施設と考えられている。

倉庫群はその後建替えられることなく廃絶するが、廃絶後の5世紀後半～7世紀にかけても周辺では掘立柱建物が継続して見つかっている。建物群は60棟を超え、6世紀末～7世紀初頭の推古朝でピークとなり、東西1km、南北1.5kmに集中している(図17)。いずれも後述する難波宮期の建物とは異なり、正方位をとらない建物の配置となっている。『日本書紀』には「難波大郡」、「小郡」、「館」、「難波屯倉」などの外交・行政施設が置かれていたと記述がある。難波宮下層遺跡の建物群はこうした諸施設に関するものと考えられている。

また、上町台地北部のより広い範囲でも建物群や土壌が検出されている。これらの建物跡や土壌、



図17 法円坂遺跡倉庫群廃絶後の建物群(6～7世紀前半)
(大阪市文化財協会1992)



図18 ガラス小玉の鑄型と百濟土器
(大阪文化財研究所2012・大阪市文化財協会2004)